

(大正七年)

大正七年一月一日

札幌神社参拝に行く者あり、大正七年一月一日、夜はあけたり、降雪しきり、十時頃より稍二晴れたり。

正月二日 終日降雪、やうやく冬らしくなれり。

三日 一日にお出になった小西兄帰へらる。

文藝部に一回寄贈。

正月五日 舎生一同石澤達夫氏に招待せられ夜四時半頃ぞろ 出かける。雪の大通りは馬鹿 廣かった。新春に当って石澤氏の御話は家庭といふことにつきてであった。

そして忠孝の根底は何処から出ねばならぬものであるかといふことを示された。

しるこの味には甚しく感心したらしかった。

かるた、とらんぶ、国旗合せ、御料理等の遊戯あり、すし、りんご、みかんの御馳走、air land water をやる、へんてこな顔がぞろりならんだ。それでも満足な顔の数人は終りのへぼのきで花々しくいろどられた、十二時頃帰へる。

一月九日 小野君帰舎ス、夜は志るこニテ餅ノ食納めか

一月十日 文藝部ヲ板垣君ヨリ拙者小野引継グ、亀井君帰舎ス、本年八例年ニ見ザル積雪量ニテ三尺余

一月十一日 飄然トシテ本日午後四時、板垣長一郎君ニハ我舎ヲ去ラル

一月十三日 大小島君帰舎セラル

一月十四日 今朝伊達君帰舎セラル、コレニテ舎生一同揃フ。

一月十五日 午前七時半ノ列車ニテ舎長宮部先生御令息ノ遺骨遙々満州ノ野ヨリ捧持シ来ル、先生ノ感慨果シテ如何御令息憲次君ニハ昨年大抱負ヲ以テ渡満セラレシナリ、然ルニ今ヤソノ人無シ、雪サヘ霏々ト降ル...

一月十六日 月次会開催ニ就キ委員会ヲ夕食後開ク。

決議事項ハ

一、舎長御令息弔意表示之件 亀井君ニ一任

一、月次会開催ノ件 来ル十九日(土曜日)開催ニ決ス、当日委員 希代君 小松君 黒岩君 村井君

一月十九日 大正七年第一回月次会ヲ開催ス

先輩石澤氏ノ臨席アリ、尚当日出演諸兄左ノ如シ。

一、生ト死トノ上ニ超越セヨ

水産孝科一年 渡辺文雄君

一、我等ノ敵

水産孝科二年 岡部彦庫君

一、偶感

豫科一年 伊達宗雄君

一、人間解剖

農業実科三年 高橋節雄君

一、私観北州

小野栄治

一、清濁

亀井専次君

一、講話

石澤達夫氏

右終リテ茶菓ノ饗応アリテ余興後賄婦給金値上ヲナス、物價騰貴ヲ先ヅ理由トシテ、コノ値上ヲ決行セントセシカ、一ニ人ノ反対アリ、故ニ我等ハ心カラト云フノデ値上ゲヲナセリ、凡テ値上ゲノ折柄皆々値上ノ流行ニ支配サレシモノト見ルヨリ外ナシ。

一月二十日 久シ振リテ以前ノ婆やがやって来て正月禮ニ来タ、ソシテ態々密柑一箱贈られた。御禮の乍蔭申シ述ベテ置ク。

一月二十一日 蠣崎知二郎氏ヨリ御正月ノ贈物トシテ蜜柑一箱、鯛一把下サル、コヽニ感謝ス。

一月二十二日 空晴レ月清シ、舎ノ二三元気者スキーヲ月下ニ試ムモノアリ、元気愛ス可シ

一月二十三日 寒気酷烈ナルニ天気ヨケレバ我舎庭ノ樹々ヨリ校庭ノ樹々一葉ニ樹氷咲ク、コレ寒国冬景色ノ一美觀タリ

一月二十六日 我舎長宮部先生ノ御令息憲次君ノ告别祭ハ独立教会ニテ行ハル舎ヨリ花輪一ケ（價格五円）及ビ弔辞ヲ事向ケヌ

一月二十七日 時計台ニ於テ懸賞演説会開催サル

一月二十八日 正月分決算ヲ夕食後行フ 直チニ発表セラレヌ、約十二円六十銭、空前ノ高値ニシテ戦争ノ影響モコノ辺迄モ及ブトハ。

一月三十一日 新聞雑誌ノ競賣ヲ行フ、芳名金額左ノ如シ。

北海タイムス	亀井君	一五銭
讀賣	豊田君	一七
東京朝日	高橋君	二二
太陽	亀井君	三四
中央公論	村井君	三五
雄辨	小野君	三六

二月三日 節分トテ追灘ノ豆投ヲナス、夕食ハ牡丹餅ノ饗應アリ

二月四日 立春ナレド寒サ厳シク雪尚深シ

二月九日 新築中央講堂ニ於テ外国語大会ヲ行フ 大小島君 小樽ヘ洒落ル

二月十一日 紀元節ナリ 好例によりピンポン大会を行ふ 午前十一時十分より午後一時終了

二月十三日 第二回月次会開催ノ件ニ付キ協議アリ 尚月次会八十七日（日曜日）慣例ヲ打破シテ開クコトヽナレリ。

当日ノ委員御芳名如左

村岡君 岡部君 岡田君 大小島君

二月十七日 第二回月次会開催ス 久方振ニテ宮部先生ニハ御出席アリ、当日講演者ヲ示セバ左ノ如シ

告白 村井君

自己ノ考ヲ率直ニ述ベタルヲ多トス

人生ト感激 高橋君

題ハ甚ダ佳、弁モ相当ナレド、論旨徹底ヲ欠クモ大体ニ於テ無難ナリ

曰ク人生ハ要スルキ苦痛ト悲哀ニ充ツ、然ルニ吾人ハ生レタルハ已ニ何等ハ意ヲ偶スルカ即チ努力ヨリ外ニ無シト。

吾人ノ努力ハ何ヨリ感激ノ発作タラザル可カラズト云フニアリ 一寸一面觀ニシテ君ノ如キ青年トシテハ時ニカ、ル思考ニ立チ至ルハ是非ナシト云フ可キカ。

所 感 亀井君

高橋君ノ演説ノ批判ノミ要スルニ惻口ナルヤリ方ナリ

所 感 北村君

所感ヨリ二三ノ希望ナリキ

茶菓（宮部先生ヨリ一五円菓子券ヲ以テ）

（茶ハ商店ヨリノ正月礼）

近年兎角贅沢ニ流ル、ヲ委員諸君ニ慨シ質素ヲ旨トセシヲ多トス

後余興アリテ散会セシハ一時、本日午後二時頃ヨリ農事試験場員ト卓球試合ヲナセリ、大勝利ヲ博ス 大々の勝利ト記スノミニテ足ル

二月二十三日 中央創成小學校ニ於テ職員對我舎試合ヲ挙行セントセルモ先方ノ都合ニ依リ試合ハ無期延期トナル

二月二十四日 第二中学出身本校生對我舎トノ試合ハ午後二時半ヨリ中央創成校ニ於テ挙行サル。我舎ヨリ五名ノ選手出デ全部優退ノ大勝利ヲ博ス。ソノ日ノ出場者左ノ如シ

五藤君 岩下君（補欠） 小松君

高橋君 植崎君 小野君（順序不同）

本日ハ絶好ノ日和トテ三角山方面ニスキーヲ試ムルモノアリ

二月二十五日 天気好晴 温度昇騰 陽気頓ニ加ハルモ 露独单独講和成立ト露国瓦解ノ兆ハ東洋ノ天地ニ險悪ヲ加フルモノアリ

舎生幸ニ健実ナルモノアリヤ

二月二十六日 本年初メテノ降雨アリ

本夜北村君ニハ副舎長就任御祝ニ舎生一同ハ善哉志留古ヲ馳走サル、御好意ヲ感謝ス

二月二十八日 決算ヲナス

亀井君ニ対シ副舎長トシテ尽サレタル功ヲ犒ハンタメ何カ贈物ヲナスニ決議ス、賄婦疾患治療代トシテ金壹円及ビー時雇婦ニ対シ金二円ヲ手當テヌ

三月一日 新聞雑誌ノ競売ヲナス

北海タイムス	一六セン	岩下君
東京朝日	一八	渡辺君
讀賣	一六	豊田君
太陽	二六	亀井君
中央公論	二六	小野君
雄辨	一五	黒岩君

三月二日 委員会ヲ開ク 評議事項ハ

亀井君ヘノ贈呈品決定ニ関スルコトナリ

此日此度卒業サル、五藤君、高橋君、植崎君、小松君モ相談ニ預ル

三月三日 桃ノ節句ナリ 日影漸ク暖カキヲ覚ユ

三月十五日 本日ヨリ第二学期試験初マル

三月十六日 委員会ヲ夕食後ニ開ク

月次会開催ノ件及ビ二三事項ヲ協議ス

当日委員左ノ如シ

齊藤君 白川君 高橋君 田中君

三月十七日 今朝五時半植崎君ト岩下君ト八日光木曾吉野方面ニ修学旅行ヲナス

途中行旅ノ安全ヲ祈念ス

岡部君本日ヨリ火鉢ヲ廃ス

三月二十二日 小野君帰省ス 一昨日ヨリ大吹雪ニテ未ダ止マズ再ビ冬来ル

三月二十四日 第二学期ノ試験終了ス又雪止ム、大正七年第二回月次会ヲ開ク

宮部舎長臨席ナサル尚石澤氏及蠣崎氏ハ御出席ノ豫定ナリシモ用事生ゼンヤ出席ナサレズ 当日出演者左ノ如シ

一、山ヨリ海へ	小松純一君
一、国民的修養ニ就イテ	大小島眞次君
一、エフェシェンヒイノ増進	亀井専次君
一、權威ナキ辨論	北村卓爾君
一、講話	宮部先生

閉会后茶菓ノ饗応アリ why because ヲヤリ後委員改選ヲ行フ 其結果下ノ如シ

運動部	村岡君	文藝部	伊達君
食事部	黒岩君	園藝部	希代君
衛生部	岡田君		

尚今晚黒岩君帰省ス、ヘボスケヲヤル 痛快極リ無シ十一時散会ス

三月二十五日 田村君村岡君野幌ヘ実習ノタメ出発ス(朝食無シ)

伊達君帯広ヘ大小島君小樽ヘ旅行ス(朝食有リ)夕方近クヨリ雨降ル

三月二十六日 内山君忍路方面ヘ実習ノタメ八時四十分ノ汽車ニテ出発ス(朝食アリ)

三月二十七日 岡部君実習ノタメ午後四時五十分汽車ニテ函館ヘ向フ、岡部君本日ヨリ希代君（代黒岩君）ヘ食事ヲ委托ス。

雨ヨリ転ジテ又モヤ雪降り泥道ニテ氣持悪シ

三月二十八日 大小島君小樽ヨリ帰舎ス（午前十一時頃）

三月二十九日 豊田君退学シテ上京ス 君此月本校豫科ニ受験センガタメナリト大二奮闘セラレン事ヲ請フ 大小島君再ビ小樽ヘ行ク（午後四時五十分 二人共）

村岡君、田中君、夜十一時帰舎ス

四月一日 北村君岩見沢ヘ出発ス（午後）

四月三日 夜八時半頃ヨリ二号室ニ舎生全部集リ妖怪談ヲヤル、偶然試胆会ノ話起リ十一時頃ヨリ始め終リタルハ約一時半、二組二分レテヤル、場所八下ノ如シ

東 植物園ノ裏ノ冷蔵庫ノ後

西 女子小学校ノ豫科一年生ノ死シタル所

東 田中君村岡君五藤君白川君岡田君高橋君

西 小松君足立君渡辺君亀井君村井君

四月四日 北村君岩見沢ヨリ帰舎ス（午前）天気晴朗 風稍有リ本日ヨリヤウヤク晴レタルナリ、渡辺君、希代君、小樽ヘ行キ夜帰舎ス

四月五日 内山君実習ヨリ帰ル（午前中）

岡田君火鉢ヲ廃ス 二号（村井君足立君）、十号（渡辺君）火鉢ヲ廃ス

斉藤君余市ヘ鯁獲ヲ見ルニ行キ夜帰舎ス、村井君本朝学友ト小樽方面ヘ徒歩旅行ス、君ノ意気ヤ壮ナリト云フベシ、夜行ニテ帰舎ス、

四月七日 大小島君小樽ヨリ帰舎ス（午後）

夕食後有志ノ人石沢氏ヲ訪問ス、氏不在ナリシモ 屋敷ニ通サレ待ツコト暫時ニシテ氏帰ラン、談主ニ経済ノ事ノミニシテ十時過辞シテ帰ル、外ニ出ヅレバ大自然ハ化粧ヲ施シテ吾等ヲ迎フ、ヤウヤク春来レリト喜ベバ復冬来ル、徒ラニ一同ヲシテ歎ゼシムルノミ

四月八日 本日ヨリ第三学期始マル 悲シムアリ悦ブ有リ種々雑多トハ此事カ、伊達君帰舎ス（夕食有リ）七時頃ヨリ土産ヲ十号ニテ一同馳走ニナル

四月九日 昨夜小野君帰舎ス、本日午前九時半ヨリ北海道大学獨立ニ際シ佐藤総長ヨリ一時間半ニ亘ル訓示演説アリキ。

岡部君忍路実習ヨリ一先ツ帰舎セラル、夕食アリ

本夜大学獨立祝賀トシテ提灯行列ヲナス、区民ト連合盛大ヲ極メタリ

小野兄ヨリ文藝部事務引継ぐ、伊達生、十一時何分かの列車にて黒岩君帰舎せられる。

十日 本日午前室更ヘを行ふ、次の如し

一号室 小松君 七号室 岩下君 岡部君

二号室 足立君 希代君 八号室 内山君 村井君

三号室 白川君 渡辺君 九号室 小野君 斉藤君

四号室 植崎君 伊達君 十号室 亀井君 岡田君

五号室 田中君 黒岩君 十一号室 五藤君

六号室 村岡君 大小島君 十二号室 高橋君

岡部君小樽方面に出掛け即日帰舎せらる。

本日より火鉢使用せざる室次の如し

四号室、九号室

夕飯後新聞雑誌競賣す

北海タイムス 一八 小松君

讀賣 一七 岡田君

朝日 二三 希代君

雄辨 一七 村井君

太陽 四〇 小野君

十一日 晝北村副舎長と壁紙修繕の事を議す。

今後出来得可くんば成可、白色のもの用ふるが可なり。斯くの如く陽気に薄暗き室に於ては最も光線の明るきを欲すればなり、夜疊屋来りて室を検分す。

十二日 日毎春気加はる。散歩の好気、運動の好気、近づく。夕食後テニスコートなどにて人々遊ぶ、皆、活動に飢えたるが如く見ゆ。夕方、五味君、山方面より帰舎（夕食あり）

十三日 土曜日のこととて誠に愉快げに見ゆ、午後、運動部にてロールを運動場にかけて地ならしをする。今年になって始めてのテニスを為す。

十四日 午後園藝部主催の裏の畑を手入す。

全員手伝ふ。黒土と緑の若草とを素足にて踏むうれしさ。春の悦びを感じり。テニスコートの垣も修繕。角力士俵の住置確定せり。

十五日 雨、木立に煙るが見ゆ。これ春の雨なり。芝生尚緑増す。夜委員会を開き来月の月次会に就きて議定す。植崎君（林学科三年、目下修学旅行中）、この度に委員になすべきか否かに就き少々迷へり。然ども前例、並びに旅行疲れにかゝらず直ちに委員になすは不當なりとて除外せり、此後かかることあらんを慮りここに一言記す。

此度の委員左の如し。

渡辺君、内山君、足立君、伊達君

十六日（火）岡田君、亀井君火鉢廃止。

十七日（水）午前植崎君帰舎す。

十八日（木）朝、岩下君帰舎す。

十九日（金）在京豊田久馬君より多数の来翰あり。

二十日（土）一号室火鉢今日より不用、岩下君、苦小牧行き。夜月次会。食事など手のかかりし程歓迎せられず。五分間演説は最も攻撃を受けたり。先づこの月次会は失敗と云はざる可らず。されど舎長、石沢氏等御出席下され、又、舎生諸兄よく、その日常の抱

負、思想等をのべられたり。亀井前副舎長へ、寄宿舍一同よりその勞に謝意を表し置時計一箇を記念として贈呈す。

二十一日(日)小松君千島方面に朝出発、数名送る。植松君正午頃苦小牧に向ふ

二十三日(火)今日より三日間学校にて体格検査あり。齊藤君再び火鉢を要す。

二十四日(水)大小島君、小樽に行かれ即日帰舎、小松君より通信ありたり。

二十五日(木)齊藤君火鉢用ゐられず。

二十七日(土)明日晴天の時は午前大掃除の掲示あり。

二十八日(日)雨は降り止みたれど地乾かざる為大掃除延期、されど午後より晴天となりたり、落葉松の苗木を植えたり。

二十九日(月)夕食後決算、誤算多く大いに困却す。

三十日(火)今日より六号室火鉢廃止。

今日限、三号室白川君渡辺君火鉢廃止サル、伊達君御親戚二不幸アリシタメ午前十一時ノ汽車ニテ室蘭方面ニ行カレタリ。

今日限五号室田中君黒岩君火鉢廃止サル

五月二日(水)夜七時岩下植崎両君苦小牧ヨリ実習終リテ帰舎セラル、夜七時頃大小島君小樽へ行カル

五月三日 大小島君小樽ヨリ早朝帰舎セラル。

五月四日 待子焦レタ運動会当日トナリヌ、全クノ運動会日和ニテ各種ノ競技面白ク演ゼラレタリキ、最後ノ優勝旗爭奪戦ニ於テ農学実科ガ勝利ヲ得タリ、我が舎デモ高橋君岡田君村岡君 何レモ大奮闘ノ結果各々受賞セラレタリ、余興中岡田君村井君渡辺君黒岩君諸兄ノ奇抜ナ変装ニ八大イキ面白味ヲ感ジタ、この日より高橋君火鉢廃止。

五月六日 午後四時頃小松君実習ヲ終ッテ帰舎セラル - 夜御土産ヲ御馳走サル、夜九時頃伊達君帰舎セラル

五月七日 夕食後新聞雑誌ノ競賣ヲ行フ

朝日新聞	二十一銭	小松君
讀賣新聞	全	黒岩君
北海タイムス	二十銭	伊達君
中央公論	三十一銭	五藤君
太陽	三十四銭	小野君

五月八日(水)小生蛇田郡 辺方面に行き留守中この日誌を足立君に御願ひいたして居た。

その御面倒を此処にて衷心より感謝す。春も深い、円山の桜の便もここかしこから聞えて来る、舎の前の桜もうす紅い蕾をたくさん葉の陰に持ってゐる。蓮の黄色の花、みどりの芝生、幸多き春はこれから展開される。北村副舎長より文藝部の仕事に就き御注意ありたり。

五月九日(木)夕ぐれのそゞろ歩きもいい、軽々した運動着にテニスするのもいい。夕方の爽かな風が春、愁を思はせる。桜見物に散歩する人も運動する人も多い。

五月十日（金）朝五時起床、十三四人にて円山に桜見物に出掛ける。松島やの菓子を食べ
て帰る

五月十一日（土）昨日までの好天気、今日になってあやしき空模様に変りぬ。恰も大掃除
の日なり。授業ある人となき人、都合よき人と、悪しき人とにて勞苦をなせし差、甚し
きあるを思ひぬ、かく思ふ小生など誠に汗顔の至なり、各自の室のみならず図書室とか
若しくは食堂などの如き処も各自分担の旨副舎長より御命令あり度きものなり、然らず
んば小生の如きぼんやり者は何にも働かざればなり。

五月十二日（日）八時より尚志舎と野球試合をなす。當舎生諸君には何の練習もする能は
ずしてことに高橋捕手の負傷とにより残念なる負を取りぬ。されどその術に於ては確た
る自信あり。かくの如き舎としての試合などには成るべく御聲援あらんことを希望す。
何等の用事もなく、不都合なることもなきに室内に止まる人あり、最も憤満に堪えず。

五月十三日（月）夕食後委員会を開く。今月の月次会並びに卒業生諸君の送別会のことを
議す。また門限此頃餘りに放逸に失する傾向見ゆる為その門限の規定有無を議決す。
然れども、これ餘り面白き議にもあらず。且つこの度の月次会は送別を兼ねるを以て、
不愉快なる気分も漂はずは最も慎む可き事なりとす。且つ一部の人の為多数の人に悪
感情を起さするが如き懸念あるが故にこの度は見あはずこととせり。殊に、来学期なら
ば人数も少くなり、また新入の人に對しては何等悪感情を起さしめざる利もあるが故な
り。私が聞く処によれば食事委員と賄婦との争論ありしとか、賄婦は某家に行くべき手
ずるもありし為か、食事委員の命ずるに従はず、凡て独断的行動をとるを委員の憤満を
買ひし故とかに聞く、記者はその詳細に知らざるを恨みとす。他日参考にもなるべしと
思ひ、たゞ記するのみ。

今月の送別会委員左の如し。

亀井君、希代君、黒岩君、村井君、の四名

五月十四日（火）小松君五藤君、高橋君植松君月寒方面に行かる、本日帰舎されず。

五月十五日（水）午前小松君帰舎、夜他三人帰舎

五月十六日（木）午前七時の汽車にて足立君蛇田方面に旅行（朝食）（食事委員依頼免ぜら
る）

副舎長の御注意に依り本日寫眞屋に交渉す、全く前年と全じなれども今年は寄宿舍前に
於て撮影すべき順序なり。

本日何等の報告なく、村井君と田中君と室を交換す。その意、近き未来に於て明かにな
るべし。これ等に就き副舎長には大いに悩まされつゝありと云ふ、試験も近づくに御氣
の毒に堪えず、今、暫くその明きになるべき時機を待たん。

五月十八日（土）本日、送別を兼ね月次会を開く。委員諸君の努力大いに舎生一同を喜ば
せり。参考のため左にその献立を左に記す。

酢のもの（うど）、茶碗むし（せり、銀杏、とり）、口取り（夏蜜柑、砂糖餅、こんぶ菓
子、ほうぼう）フライ。

本日は先生の外、先輩、安部氏御来席あり。先生にはことに御懇厚なる御訓示あり。安部氏には米国に於ける貴き実地談を御話しあり、舎生何れも緊張し興味を以って拝聴せり。

その他、内山君岡部君伊達君亀井君、北村君の熱心なる送別の辞ありき、何れも面白く拝聴す。

最後に、卒業生諸兄の萬歳と、青年寄宿舍の萬歳を三称して散会せり。

たゞ遺憾なりしは、大小島君小樽に、村井君石狩に向はれしことなり。また、植崎君、岩下君林学会の送別会にのぞまれ、式の前半欠席なされしこと等なり。

この夜、足立君旅行より帰舎せられたり。

五月十九日（日）午前八時半舎前にて撮影す。

六七人の諸君、先生と共に植物園に行く、恰も四人の可憐なる児に会い、共に無邪気に大いに凸坊振りたり。後舎につれ来り湯などを馳走して帰す。夕方、寫眞屋に交渉に行く。二十五枚ならば四十銭づつなりと云ふ。この夜、村井君、大小島君帰舎す。

五月二十三日（金）小松君、火鉢使用

五月二十四日（土）北村副舎長、ローンの手入をされたり。小松君火不用。

五月二十五日（日）晴天、円山方面などに散歩にゆく人多し。

五月二十七日（火）夕食後、決算。極めて容易にはこぶ。送別会の月次会費は卒業生よりとらざる事に決す。

五月三十日（木）午後九時岩下君帰省。

五月三十一日（金）午後四時五十分東京二出発ス（伊達生）

六月二日（日）昨晚、小松村岡ノ両君輕川へ 取り二行カント約シタレド朝起キレバ雨ポツリノハト降りツツアル、両君イサ、カ葛藤シタレド午後ヨリ晴レタレバ植崎君ト都合三人ニテ出カケ、夕食頃徒歩ニテ帰舎シ「ドーラン」ニタップリトリ来タリタルモノヲ沢山ノ人々ニ分チ与ヘタリ、而シテ此際例ニヨッテ村岡君ハ話題ノ中心トナリタリ、君果シテ中心トナルベキ何物カヲ有スルヤ否ヤ

又、此日午前ヨリ内山、田中両君ノ八号組八苗穂方面へ出カケタリ

夕食後新聞雑誌ノ競賣ヲナス。

北海タイムス	一四	小野君
朝日	二〇	足立君
讀賣	一八	五藤君
中央公論	二一	岡田君
太陽	二〇	足立君
雄辨	二五	村岡君

六月三日（月）大正元年ニ買求めたりし希獵物語心アル古物買ワザ 当舎マデ持参サレタル事ニヨリ再ビ本棚ニオサムルヲ得タリ、身ハ一大学ノ学生デアリナガラ其現在宿泊シヤル否第二ノ家庭トモナルベキ舎ノ書物ヲカレガイカナル動機ニテ舎外ニ持チ出シタ

ルヤ知ラザレド、カレガ不徳義、カレガ破恥ナル其行為ヤ憎ミテモ余アリ、モシモ不幸ニシテ今度舎ニカカル事生ジタル際ハヨロシク相当ナル制裁ヲ加ヘテ可ナラン、是共同生活ノばちるすを減スハ基ナレバナリ

金曜迄ニ持參致シマスト言ヒタル写真屋ハ約束ヲ守ラズシテ、却ッテ昨日余トリニ行キシニヨイ顔モセザリキ、今年ヨリ月次会ノ御馳走費及ビ写真代ハ卒業ヨリトラザル事トナセリ、舎ヨリ一組代ニ、七〇〇補助アリ、其上アイスクリームノ不足分五錢ヲモ補助サレタリ、一枚の代價〇・四〇〇又一組三円ノヲ割引シテ二円七十錢ニナシタルナリ、六月十日（月）中央講堂ニテ慈善音楽会アル由ニテ舎生世界的名声樂家並ビニピアニストの樂ニ陶然トシテ酔ハンガタメニ行クモノ四、五アリ、只惜ムラクハ世ノ中ニ慈善トハ偽善ニ単衣一枚着タルモノ往々アル事ヲ又聞クモノ敵本主義ナルモノアラザルナキカラ疑フ、知ルハ其心バカリデアル。

六月十五日 帰省中ナリシ岩下君本朝帰舎ス、第三学期ノ試験本日ヨリ始マル 又、圓山神社ノ祭ニシテ大ニ賑フ、大通ニハ有田洋行会柿岡大曲馬等来リテ人出夥シ。

六月二十四日 愈々学期試験本日ヲ以テ終了ス。

夕食ニぜんざいの馳走アリタレド氣勢甚ダ揚ラズ、食後くれぱぢすニ行クモノ多シ、喜ノ心自ラ外ニ表ル

六月二十五日 月次会ヲ開ク、舎長御臨席ノ筈ナリシモ用事生ジタルタメ奥サンワザワザ御出デナサレテ拒レタリ、殊ニ卒業諸君ニトリテハ最後ノ会ナリシヲ以テ和氣藹々ノ内ニ開カレ終ラントシタルニ、斉藤君病氣ノタメ折角ノ会モウムヤムニ終レリ。

尚当日ノ委員ハ左ノ如シ

村岡君、岡部君、大小島君、岡田君

六月二十六日 午後四時五十分ノ汽車ニテ小野君岡部君希代君大小島君ノ諸兄帰省ス。

但シ岡部君丈ハ帰省後直チニ実習ニ赴カルル由。プラットホームハ見送人ニテ甚ダ混雜ヲ極ム。本日ハ可成暑キ日ナリ。

本日宮部舎長ヨリ左記ノ書籍御寄贈アリタリ

詳細ハ図書目録ニアリ

飲食篇、菜食篇、烟草篇 日本酒醸造篇 肉食篇 栽桑篇 西洋酒醸造篇 通俗農用種子學 奮闘的生活 日本魚類查定 法 農業氣象學 日本昆虫学、实用肥料学、植物学 養論、柑橘栽培書、林業篇、实用養蚕新書、農村の事業ノ方法成績 農業史 北海道農令要録 二宮翁ノ研究 米麦篇 応用肥料学 大麦論（醸造用） 日本植民論 華果栽培 農業経剂原論 農業政策

六月二十七日 午後四時五十分足立君帰省ス、夜九時亀井君是又実習ニ出カケタリ、舎八日一日ト静ニナル、帰ル人ト残ル人其心ノ相違ヤ如何。

六月二十九日 各室ヨリ新聞紙ヲ集メ松島屋ヘ交渉シテ一貫五十錢ニ決メ夜九時ヨリ交換シタル、菓子及ビサイダーヲ以テ盛大ナルコンパヲ開キ、又六七人ニテハナヲヤリ十二時半頃閉ヂタル由。

新聞紙ノ總目方八三貫七百五十匁

- 六月三十日 内山君午後四時五十分ノ汽車ニテ実習ニ向フ
- 七月三日 村岡、田中ノ両君午前九時十二分ニテ苦小牧ニ実習ニ行キタリ
- 七月四日 岡田君午前五時四十分ノ汽車デ帰省サル、陽氣ノ事四天王カ五天王ノ岡田氏モ
帰省サレテ八益々淋シクナル
- 七月五日 此日学校ノ成績発表ニテ雨トナルヤラ風トナルヤラ種々凝ヒタリ舎生中田中氏
ハ新タニ特待生トナレリ、全般好結果ニシテ北村氏ハ此由ヲ即夜宮部舎長ニ報告セラレ
タル筈ナリ、記者ノ好結果ナラザリシノミハ舎ノ神聖ヲ汚セルモノノ感アリ
- 七月六日 本日ハ卒業式ノ在リシ日、午前九時頃卒業生並ニ在舎生八式場ニ臨マレタリ、
帰舎后学校よりノ勝餅ヲ食ヒツ、雑談ニ耽リタルモ卒業生事ノ眼光ニハ学生気分ト社会
人気分トノ轉換ニ光ニ輝ケルモ亦妙ニ感ゼリ。
高橋君ニハ午後十一時四十分ノ汽車ニテ帯広ニ向ハル
- 七月七日 本夜九時頃石沢達夫氏ノ養鶏納屋ヨリ出火シ同納屋ヲ燒盡シ鎮火セリ原因ハ石
沢氏ガ羽蟲ヲ熔除セシ際ノ残火ニヨルナリト尚大事ニ至ラザリシハ不幸中ノ幸事ナリト
云フベシ 損害約二百円位ナリト此時区中ノ警鐘八打鳴ラサレ一時大騒ギナリキ
- 七月九日 時の流れのいと早く流れに逆ふしがらみの諸国の人を集めし吾舎も亦もふり来
る夏休みてう流れに一人行き二人行きで残り少なの時とはなりぬ今宵も九時の汽車にて
五藤君植崎君帰省さる
- 七月十日 午後四時五十分汽車にて小松君渡辺君帰省さる
- 七月十三日 本朝七時突然豊田氏帰舎せん
- 七月十四日 本日より舎ノ井戸換へ並ニ旧来ノ滑車汲上ヲ廃シポンプトナサレ目的ニテ作
業開始サル
- 〃 十六日 井戸ポンプ完成ス
- 〃 十七日 本日岩下君午後十一時四十五分汽車にて釧路に出発さる
- 七月十九日 本夜十二時の汽車にて植崎君帰舎せらる
- 七月二十日 休夏中ノ楽シミトシテ在舎生六人図書室ニ上敷を広ゲ牛鍋ヲツツク、陰レタ
ルローマンスハ遺憾ナゲニ吐キ出サレタリ、在舎生ハ北村氏白川君齊藤君村井君豊田君
植崎君
- 二十二日 本日植崎君ニハ午前十一時四十七分ノ汽車ニテ苦小牧製紙会社ニ赴任サレタリ、
朝昼食在リ。
- 二十三日 本日午後五時ノ汽車ニテ高橋君帰舎サル食事ナシ
- 二十五日 本日決算アリ
- 二十七日 本日午後九時ノ急行ニテ北村君帰省サル
- 二十九日 本日午後四時五十分ノ汽車ニテ齊藤君帰省サル
- 三十日 本朝五時ノ汽車ニテ小川君帰省サル食事ナシ
- 八月一日 本日ヨリ遊園地ニ開道五拾年博覧会ノ開催ノ日ナリ前景氣多シ。

河原君今夜夜食ヲ済セテ本夜ヨリ親元ヘ帰レリ

八月二日 本日河原君午前ニ来舎自己ノ服着ヲ乾ス、昼食、夜食ヲナシテ帰ル、数日来ヨリ舎ノ廊下ノ掃除至ラサレバ在舎生有志ハ心行く許リ清潔ニセリ

五日 朝九時頃河原君来リ、友人五六名ヲ伴ヒ来リ、図書室に遊ブ昼食ト夕食ヲ済セテ帰ル、彼ノ舎ニ対スルノ厚意ナキヤ憎シ、例令舎ノ内外塵モテ汚レ居レ共誰カ舎ノ者ニシテ頼マザレバ掃除スル気配全然無シ、記者思フニ、彼ノ性質上ヨリシテ彼ノ境遇ニ秋毫モ同情スルノ價値ナシ、願ハクハ副舎長ニ若シクハ舎生合議ニヨリ、今後学僕ノ全廢シ日々ノ廊下掃除ヲ舎生ノ輪番ノ当番ニヨリテ之ヲ実行シタシ

七日 本朝六時四拾分ノ汽車ニテ高橋君出發サル、朝食在リ 村井君ニ八夕食后白石村宇都宮牧場ヘ実習ニ行タル

本日亀井君突然歸舎サル一同大イニ嬉ブ。昼食あり。夕食後村井君宇都宮牧場ヘ実習ニ行カル

八日 豊田君亀井二人ノミ

九日 朝食后豊田君旅行ニ出立 残り一人寂莫出ハン方ナシ

十五日 川原来リ掃除ヲナス 夕食ス 当地ニテハ中元ナリ

十六日 早朝豊田君歸舎 朝食ス

又前副舎長丹治七郎氏父君同行ニシテ来舎暫時御逗留ノ由、父君昼食 夜同

十七日 午后中央講堂ニ於テ社会政策学講演アリ、五博士辯ヲ振フ中福田徳三博士ノ言殊ニ流暢ナリ 父君ノミー日食セラル

十八日 丹治氏父君朝食セラル 夕飯父君ノミ 近来珍ラシク雨天ナリ、寒氣頓ル加ハル

十九日 快晴 博覧会二人出極メテ多シ

丹治父子御兩人食事セラル、閑院室殿下御到着

二十日 丹治氏室蘭ヘ出發セラル、寄宿料トシテ金五円預ル

閑院之宮殿下学校ニ成ラセラル

二十一日 夜行ニテ北村君歸舎、先輩鷹野君来訪セラル、北村君食事ナシ 競馬盛況ナリ

廿三日 夜鷹野君来舎 心バカリノ馳走ニ相談ズル事暫時 別ル

廿七日 羽生氏 氏訪舎サル 氏八菓子料ニシテ寄附セラル

廿八日 岡部君前十一時ノ汽車ニテ歸舎ス、食事アリ

廿九日 夜小松君 小樽水産試験所詰ニテ任官セラレ来舎 途中知人ト同行セラレ寄宿舎ニ連レ込マル

卅一日 午後三時突然足立君歸舎せらる、

八時頃村井君遠く白石より来られ十時半まで話、牛の産婆話しをせらる。

九月一日 亀井君苦小牧に二十二、三日頃歸札の予定にて午前九時十二分の汽車にて出發せらる。廿九日より居られし御客も同列車にて室蘭に向はる、停車場大いに混雑す。

二日 婆やには午前四時手稻の叔父の病氣見舞に行く、午後七時歸る午後八時頃以前の婆や来る、新入舎生五名は稍決定、これにて早満員

三日 夕方北八條の鈴木の婆や来られて種々話され豆腐屋に一泊翌朝再び来られて晩まで居られたり。

四日 テニスコート修繕にかかる

五日 晝食後北村君には客人の御伴にて農場に向はる、入れ違ひに小野君希代君鉄瓶の様な黒い丈夫想な顔をぶらさげて帰舎せられ

六日 昨五日催さるべき全国煙火大会は風雨の為本日盛大に行はる 出るは 来るわ波の様に右により左になびいてよくも人波とは云ったもんだ数多の煙火更々とあげられて例えば夢の様だとも云へる。

七日 早朝足立君には千歳なる知人の元に行かる 朝食なし 十時頃より五名にてクルマを探る。約八升早速畑に埋む 午後は土方と化してテニスコートに土を運ぶ疲る事甚だし、三時半漸く終る一事成就の跡誠に心地よし大いにやる 予科の小林君入舎せらる、夕食あり

八日 小島君入舎せらる、午後斎藤君帰舎せられ共に食事あり、黒岩君は御老父及び二人の御方と同伴にて帰札せらる、食事無し、愈々元気に満ちたる寄宿舎となる。

九日 夕食後一同にて を食い居る所へ、足立君と村井君と帰舎せらる 食事なし 一ヶ月の牧夫生活よりはなれた君は別人の様な強い力の人となって帰られた。四天王の撰にもれざる資格あり、昨八日より新精鋭を迎えたる食事係は最初より飯不足の声を以て醒されたり、食えるだけ食って出来るだけ運動せ、渡辺君には午後十一時五十七分の汽車にて帰舎せらる。

十日 大小島君田中君岡田君には午後六時頃帰札せらる、食事なし、八時村井君の善哉汁粉の御馳走あり

十一日 入学式あり 新入生諸君の如何に心地よきよ 伊達君帰舎せらる 君の病氣全恢の由目出度し 次で黒岩君旭川地方より帰舎せらる

十二日 白川君村岡君帰舎せらる 食事アリ。

連絡船にて偶然會したる由部屋の都合にて多少の移動あり、渡辺君七号室に、拙者岡部、十二号に移る テニスの練習甚だ盛なり

十三日 林学実科一年清部野弘三君入舎せらる

十四日 水産専門部一年渋谷誠志君入舎せらる、午後一時より大学中央講堂に於て三宅教授の水素イオンの濃度測定には 二三農藝上の應用 戦時經濟 森本教授ら他高商辯論部長大西教授の博覧会記念教育講話あり。

小松君は午前用事ありて高嶋試験場に行かれ則日帰舎せらる

十五日 博覧会期中最終の日曜日残念ながら大暴風雨 朝より晩に至るも尚其猛威を振ふ板塀を破損せられし家多かりき。

十六日 午前六時三十分急行列車にて小松氏愈々任地なる高島実験所へ赴任さる 一同睡き眼をこすりつゝ停車場まで見送りをなしたり 昨日に変わらまほしき上天気輝きたる旭は氏が幸福を兆すものならむか、晩景散策を試むるもの多し

小松君朝食あり

十七日 昨日一昨日と荒れた暴風も漸く怒を沈め穏な小春日和なり、本日植物園に変死者ありとか聞けり、花園の朝鮮菊、嵐のために倒されいかにも哀れなり

十八日 本日夕食後競売ヲなす（但し新聞のみ）

北海タイムス 二拾銭 足立君

讀賣新聞 二拾銭 伊達君

朝日新聞 二拾五銭 黒岩君

競賣の後委員会を開き歓迎会の議をなす。廿一日の土曜にすべきや廿三日の月曜日にすべきや大分苦しむたる亀井君の帰舎を待ち其都合次第とし一時散会。

亀井君午後七時頃帰舎せられ月次会は廿一日と決す、委員左の如し

小野君 白川君 齊藤君 田中君 亀井君 夕食無し

十九日 夕食後久し振りにてピンポンをなす、雨降り鬱を散ずるためなり 本学年今日を以て嚆矢となす

廿日 亀井君拾壱号に移る

今夕歓迎会を兼ね月次会を開く 委員諸君の奮闘のあとは晚餐の食卓に顕然たり、先づ第一にパンにバターを拱へ其側には艶良き林檎とトマトの配合殊の外見事なり、吸物としては何やらん塩気てとき汁の中に成金豆を沈ませ上には海苔を浮かせたり。酢の物にはキャベツと馬鈴薯の小きざみ味極めてよし、もう一皿にはセルリ二三本と常には口にし得ざる鮭のフライ、最初の番組斯くの如くパンを平らげて後にはサツマイモ入りのライスカレー来る 何れも鱈腹つめこみ腹の苦しさをテニスに紛らすものあり。六時半開会、小野君の開会之辞に初まりて有志諸君の熱誠なる歓迎の演説、次いで副舎長の舎生代表の歓迎の辞、既に御多忙の処を宮部先生並に石澤様も御臨席をされ、先生には学校創立当時の気風より舎長としての訓辞に及ぶ御懇篤なる御言葉、次いで相変わらず熱烈なる石澤様の御演説あり。其れより茶菓の饗應に移り先生方お帰りの後、例に依って委員の改選結果左の如し

食事委員 豊田君 運動部委員 大小島君

衛生部委員 足立君 会計部委員 齊藤君

文藝部委員 伊達君（留任）

余興は十一時に終る

九月二十二日 有志十名ばかり午前七時四十分の汽車にて手稻登山の目的にて軽河に向ふ、氏名左の如し、岡部君、村岡君、岡田君、豊田君、齊藤君、大小島君、小野君、渡辺君、首藤君、小島君、河原君

其内齊藤君小島君は途中で残念ながら引返して帰舎、又豊田君は用事のため頂上より直ちに下山汽車にて帰舎せらる、他の諸兄頗る元気旺盛にて午後四時半頃帰舎、新聞を見れば我張り過ぎたる内、内閣も遂に没落の悲運に会ひ大命は西園寺候降りしとは政界の風運益々急なり

九月廿四日 今日本舎運動部庭球大会を催す、

開会八時半にして八時よりコートに参集猛烈なる練習をなす、当日勝負左ノ如し

第一回 三本勝負

小林君 小島君 岡部君 白川君

治部野君 渋谷君 岡田君 村岡君

足立君 齊藤君 亀井君 希代君

道藤君 大小島君 豊田君 小野君

齊藤君 河原君

北村君 伊達君

黒岩君 渡辺君

村井君 田中君

第二回 紅白三本勝負

首藤君 治部野君

小島君 渋谷君

河原君 大小島君

齊藤君 渡辺君

村井君 足立君

齊藤君 伊達君

希代君 北村君

渡辺君 田中君

岡田君 亀井君

白河君 黒岩君

岡部君 豊田君

村岡君 小野君

余興として舎生東西の一本試合をなす熱烈なる應援の下に西の勝に帰す、十一時三十分閉会、晝食には汁粉の馳走あり鱈腹詰込む

夕食後語學會及算盤会の設置に関する会合（賛助員の）九号及十二号に開かれたり

帰舎は如斯き会の長く續かんことを希望して止まず

廿五日 今晚十一時北村君網走方面旅行せらる

廿六日 白川君及齊藤君朝食後網走方面へ修学旅行の途につかる 足立君十二時頃より旭川方面へ旅行せらる

九月廿七日 午後七時頃、号外、大命遂に政友会総裁原氏に下る

九月二十九日 本日より小生事務引継ぎ申出。

今まで御依頼いたせし希代君に熱く御礼申上げる（伊達生）

内山君、午前六時半忍路に一週間の豫定にて出発、正午頃内閣各員発表、晝の食卓はこれらの話にて持ちきりたり。富貴堂に行き楓林原稿を七銭のものの五帖求む。

九月三十日 亀井君、野幌方面へ出発、午後三時半帰舎

十月一日 午後十時頃北村君白川君齊藤君帰舎

十月二日 夕飯後新聞雑誌競賣

讀賣新聞	二十錢	小林君
朝日新聞	二十錢	亀井君
北海タイムス	十八錢	岡田君
中央公論	三十六錢	伊達君
太陽	二十八錢	渋谷君

尚、宮部先生より左記二冊と雑誌の寄贈ありたり、宗谷支廳管内概況 網走支廳拓殖概観

十月五日 午後、内山君実習より帰られたり

水産試験場の小松君御来舎、午後七時頃白川君突如退舎、其理由詳かならねど残念なり。

十月六日 夜八時頃第一農場に火災あり。

十月七日 朝七時小松君高島へ帰られたり

十月八日 豫科二年樋村五郎君入舎

十月九日 夜十一日の記念会の相談を為す。種々の議論ありたり。兎に角、記念祭を例年よりは少し盛大たらしむること、招待人員を増加すること、余興に就き廃止ならば如何との説、それに大反対の説あり。然れども余興に依りてこの寄宿舍の尊厳を傷くるが如きことは絶対になしと信ず、記念会の歌詞を小野君に曲を伊達君に依頼す、運動部に於て石狩に遠足を行ふことに就きて議す、殆ど全部賛成なり。

十月十日(木) 小野君に依頼せし歌詞完成せり。

十月十一日(金) 小野君午後より外出、今夜外泊するやも知れずとのことなり、文藝部多忙につき先に掲示に出したる楓林原稿の出来上りたる方は可成早く差出さる由掲示す。小島君一人差出されたり、夜小野君の室に従ひ紀念會の招待状を差出す可きを北村副舎長に相談す、少し早からんとの事にて、舎の一覽(明治四十一年)を稿正す。

十月十二日(土) 朝曇り日なり、舎生、石狩行きを懸念す、然れども正午頃になって絶好の日和となりぬ、学校より退くることの早き者あり、遅き者あり。御蔭で晝食を沢山食べることが出来なかつたなどと残念がる人もありき、一行皆元気旺盛、暮れかゝる石狩の平原を横断する時の心地、將に日の西に落ちんとして静かに流れゆく石狩の河、白く光りて天地萬物の秋の聲に耳を傾むくる時、就等舎生が意氣実に盛なる心地す、半道なる頃よりラストヘビーにて目的地たる小学校に到着す、御世話の方に御出迎ひを受ける。それより角力をとる。湯に行くものあり、暫くにして夕食、食ふも食ふたり、飯はすっかり平げて未だ不足の如き顔せるもの三四、直ちにふかし芋を食ふ人あり、夜、例に依りて騒げり、放屁も盛なりき、一時近く就寝

十月十三日(日) 今日も絶好の日和、起床七時半、食ふこと例の如し、オルガンを弾く者あり、ダンス、体操など、出鱈目をやりて腹の皮をよらせられたり、海岸に出で、鮭狹

と燈台とを見学、春らしくのどかの日なり、地引の口クロ引く調子と船のかひをやる調子にたとへ様もなきのどかさを聞く、村岡、渋谷、伊達の三君は海水浴をなす、学校に帰りて再び遊ぶ、逆へボ抜きなどを考案して一同興にのりたり、二時頃出発、石狩の河を発動機船にて上る、石狩川の秋色単調の内に静かなる気分と云ふに云はれぬ心よき気分とあり。茨戸より歩行、暮色靄々然たる中を麥焼きの煙などがめつ々、漸次強歩行となる、札幌近くになってかけ出すものあり、岡田、首藤の両君最初の帰省舎ならんと思ひしに先に岡部君の到着せられたりしは、例の岡部君とはいへ一驚を呈せり、兎に角、この度の遊行は愉快の限りをつくす、同行せざる人にはこの味は解せられず、午後九時頃小野君帰舎。

十月十四日（月）夜、余興係の相談あり、新舎生、舊舎生の二部に分ちて各々その蔭くし藝を見せることとす。昨日の疲労などは何人にも見られず。舎生凡て健全なり。

十月十五日（火）庭球などをなしたりしが、風も吹き初めて、木の板も落ちて運動も早や数日せまりしが如く覚ゆ。

十月十六日（水）豫科の人二軽川へ遠足、夜、小野君、活版所に行きて発行すべき一覧の事を聞かれたり。餘りに高價なるが故にこれを止む可きに決す。

十月十七日（木）大掃除の日なり、絶好の日和なりしは此上なき幸なりき、神嘗祭なり。夜、赤飯、室かへあり、

十月十八日（金）寒気強し。冬の近づけるを知る。

十月十九日（土）好晴、學庭に於て大洋倶楽部と野球試合あり、舎にても應援にゆくもの多し。

十月二十日（日）好晴、心よきこと限りなし。

四五人の人は、朝食後より学校にテニスに行く、又藻岩か野幌に行く人もあり。

十月二十二日（火）豫科生発火演習

十月二十三日（水）昨日の発火演習にて豫科生休業

十月二十四日（木）寒気甚だしき日なり、雪降り来りて、夕方より夜にかけて益々激し、今夜より火鉢を使用するものもあり、一号室、二号室、六号室

十月二十五日（金）積雪五寸、寒気酷烈、実科は発火演習。

紀念会に歌ふ可き歌詞（小野君）と曲（伊達）発表。火鉢を用ふるもの、三号室、九号室、十号室、この夜、小野君謄寫板を富貴堂よりかりて来られたり。

十月二十六日（土）午後より紀念出版物の仕事を始む。小野君、渡辺君、岡田君、澁谷君等手傳はれたり、火鉢使用者四号室、この日実科発火演習

十月二十七日（日）午後より昨日の仕事の續きをなす。

十月二十八日（月）文武会の新入生歓迎会が眞駒内で開かれる。天気がいいものだから可成行く人がある。

本の表紙と割りピンを買って来て、仕事のつづきをする。午後三時頃漸くきまる。

夜決算、炭使用に就いての相談あり。

十月二十九日(火) 紀念会近づけるを以て皆々緊張す。各々秘密に練習す。熱心の極、K、H、両君衝突す。平和なるこの舎に於て、こかることは実に変な気がする。吾人は須らく紳士の態度をとり野蠻なることは避け度し。

十月三十一日(木) 天長祝日、夜志る古の御馳走あり、昨夕より紀念会乃歌練習を図書室にて開く。

十一月一日(金) 各室余興の練習に熱中、変な声色など聞え来りて腹を抱へさせらる。炭使用に就き左の如く規定さる。年末の如くすれば甚だ無責任になり、従て不経済をまのがれず。小野君の発議による。炭やに依りて各自炭箱に炭を可成平均に入れて貰ひ一箱出した毎に具へる記録表に記入すること。

計算

假に 大箱を一とし - 用ふると十箱

小箱を○. 八とす - 用ふると5箱(実八大箱にて四箱)

なりとし。

物置を見て七俵用ひたるを知り、而して一俵假に二元なりとすれば凡て使用したる炭は十四円なるべし。故に大箱、一箱は恰度一元づつなるが如く計算す。

十一月二日 朝より一同緊張せる如く見ゆ。帰舎後凡ての人は裝飾に食事に忙殺さる。時刻になりて来賓の少きに失望せり。只、先生と石澤氏とのみ、憤懣に堪えず。

開会の辞 小野君

舎生総代祝辞 北村君

来賓祝辞 石澤氏

舎長祝辞 宮部先生

紀念会歌合唱 一同

北村君の音頭にて先生の萬歳三唱

先生の音頭にて青年寄宿舍の萬歳三唱

いよ 余興に移りたり。

一、活動写真 舎の生立 松之助

二、合唱「冬の野」 二人聲シヤン

三、

十一月三日(日) 夕食後新聞雑誌競賣

北海タイムス 二五 治部野君

朝日 三六 小島君

讀賣 三〇 大小島君

中央公論 二〇 伊達

太陽 四三 小野君

語学会楡影会の相談、いよ 今週金曜日より始むることとなせり

十一月四日(月) 晝太根干しをなす。富貴堂へ謄写板をかへす。夜、ばあやの御地のカボ

チャあり。

十一月五日（火）豫科二年生の人々と北村副舎長とにて太根漬の手傳ひなす。本日ストーブ据付く。一号室火鉢廃止。

十一月六日（水）希代君例の流行性感冒の為か、具合悪しとの由。

十一月七日（木）寒気甚し。雪降り来る。

十一月八日（金）午前二時七分希代一郎君一号室に於て急性肺炎に心臓病を併発し遂に永眠せらる。舎創立以来の不幸事なり。

十一月九日（土）佐藤總長来舎され、親しく話されたり。

十一月十日（日）故希代君の葬式の日なり。此日などより一刻一刻、病御人ふえたり。恐らく例のスパニッシュインフルエンザならん。

正午棺を棺馬車に入れたる時、故希代君の父上御来舎、再び引き下し、父上決別をされたり。我等感慨にうたれ無言なりき。新善光寺の葬儀は中々盛んなりき、唯、寒気甚しく帰舎の後うどんを食す。

十一月十一日（月）葬儀も済み力ぬけしたるものなるや。また病御人ふえ、舎中無事なるは二三人のみ。舎中誠に晴々たり。…………… 小生も遂に病床にあること一週間餘、其間代筆の人もなし、止むを得ず中絶したるは申訳なし。

学校も遂に休業し二十五日より始業のことなり。

十一月二十一日、小林君小樽行き。

十一月二十二日（土）朝、小野君帰舎、卒業生小松君来舎、夜、十二号室にて集りて小松君御馳走の菓子を食す。暖き日なり。大小島君小樽へ

十一月二十四日（日）夕食後小林君、風邪の工合面白からざる故を以って小樽の叔父様の処に行かる（夕食後）夜大小島君小樽より帰舎。

十一月二十五日（月）雪降る。朝六時小松君帰樽。

午前九時頃小野君帰舎、久し振りにて授業あり。

十一月二十六日（火）小林君正午帰舎、再び夜、小樽へゆかる。小樽より学校へ通はるゝ由なり。

夜、小島君退院帰舎。小林君退舎のより（三十日明、退舎の日付は本日の筈なり）

十一月二十九日 夜、伊達生四号室に移る。

十一月三十日 夜九時の急行列車にて小島君は摂養の為、首藤君は兄君の御不幸の為何れも帰国されたり。先に希代君を失い、小林君退き又この二人を欠きし舎は寂然たるものあり。

十二月二日 夕食後新聞雑誌の競賣をなす。

朝日新聞	二十五銭	北村君
讀賣新聞	二十三銭	豊田君
タイムス	二十二銭	黒岩君
中央公論	三十六銭	渋谷君

十二月六日 朝首藤君帰舎 食事あり

〃 七日 「我等は何を信ずべきか」「螢学」二冊購入。

十二月九日 雪降る、寒気強し。根雪となるべし。

池氷張る。舎生のスキー、スケートするもの多し。

十二月十日 午後四時五十分、小野兄旅行に出発。

十二月十七日 宮部先生に舎より御歳暮として鶏二羽差し上げたれど来年よりは廃止せよとの御言葉なり。それは昔この舎にて飼養せしものを差し上げしなれど現今にては購ひて之を為すが故なり。

十二月十八日 夜、委員会、今月の二十二日に月次会を開くことにせり。委員左の如し。

豊田君、渡辺君、治部野君、足立君

十二月二十一日 午後五時、村井君帰省、本日試験終る。

十二月二十二日 本朝七時伊達君帯広に赴かる、朝食あり。

十二月二十二日 本日開催すべき筈の月次会宮部先生の御都合により明晩に延期せり。

十二月廿二日 本朝四時五十分の函館急行にて村岡君帰省さる

十二月廿二日 黒岩君首藤君午後四時五十分の列車にて帰省せらる。

十二月二十三日 岡部君樋村君はスキー練習の為め本朝軽川に赴かる、朝食なし。

十二月二十三日 岡田君実習の為め野幌へ赴かる。

第二学期委員左の如し

衛生部委員岡田君 文藝部委員樋村君

運動部委員小野君 会計部委員渡辺君

食事部委員村井君 次点者 渋谷君

十二月廿四日 本朝五時四十分の列車にて帰省の予定なりし田中君帰舎延着ノ為め帰省延期をなせり。

十二月廿四日 田中君午後四時五十分帰省さる。

十二月廿五日 岡部君軽川のスキー部より帰り来り。晝食、夕方亦帰らる

十二月廿七日 早朝より我舎生一同にて餅つきをなす。岡部君もわざ 軽川より来りて餅つきに手傳、朝食晝食あり。

十二月廿七日 本日午後岡田君帰舎せらる。食事なし。

十二月廿八日 北村君午後四時五十分の列車にて帰着せらる。

十二月廿八日 長らく舎の為に御盡力下されたる足立君御都合により本日夕食後退舎さる。

十二月廿九日 大小嶋君本朝小樽の叔父さんの処に赴かる、食事なし。樋村君スキー合宿より帰舎さる。

十二月卅一日 小松君来舎せらる、食事アリ。

此夜二号室につとひて大正八年の明に及ぶ。